

# ナス栽培

**品種** 千両二号、  
黒陽、庄屋大長  
**とろとろステーキナス**

## 料理ヒント&効能

中国の薬膳では身体を冷やしむくみを除く効果があるとされている。ナスに含まれる、ナスニン、クロロゲン酸はポリフェノール類で抗酸化作用をもち、動脈硬化予防、血圧、血糖値の正常化に役立つとされている。

### 地ごしらえ、植え付け

#### 1回目追肥

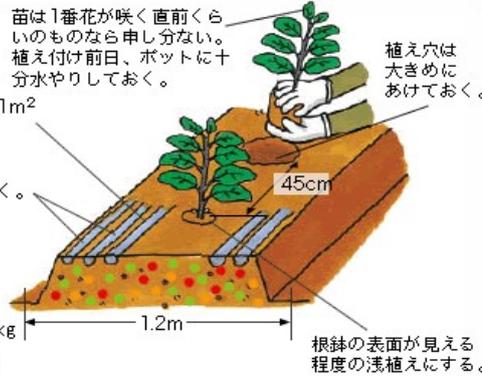
・苗が活着して7~10日後、化成肥料を1m<sup>2</sup>当たり40~50g施す。

#### 2~3回目追肥

・株元から離れた所に施し、覆土しておく。

#### 粗起こし

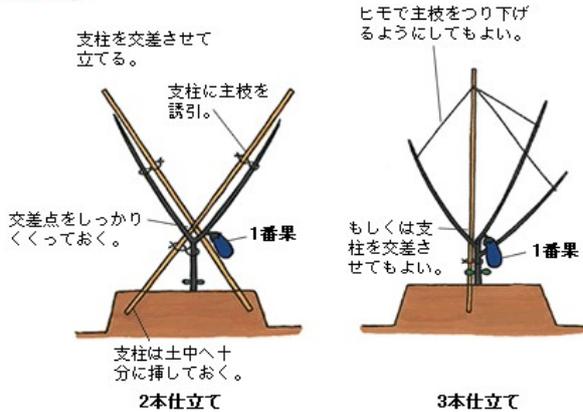
- ① pH調整 ● 堆肥 1m<sup>2</sup>当たり3~4kg  
● 苦土石灰 1m<sup>2</sup>当たり120g
- ② 元肥 ● 化成肥料 (N:P:K=8:8:8) 1m<sup>2</sup>当たり150~180g (全層施肥)



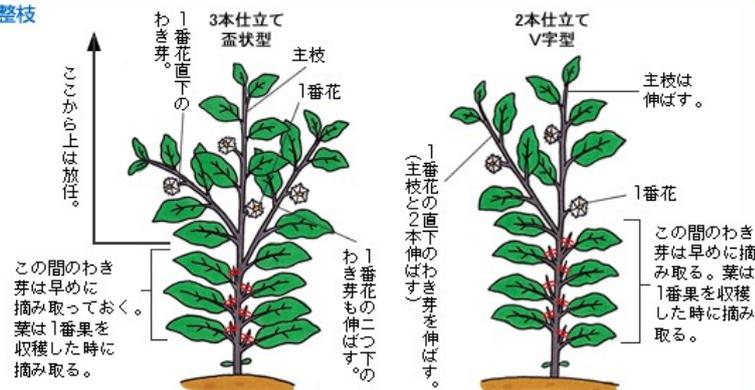
### ポイント 定植

健全な苗を選びます。購入した苗はいきなり畑に植えるのではなく、2~3日の間、日当たりのよい所で慣らしてから植え付けます。老化苗を植えると活着が遅れ、よい玉の収穫が望めません。植え終わったら仮支柱で倒伏を防ぎます。

### 支柱の立て方



### 整枝



### ポイント 整枝

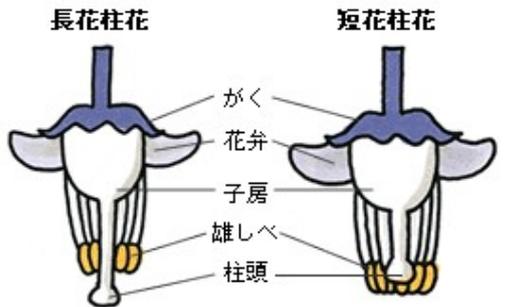
ナスは、主枝の8~9節目、遅くとも11節目くらいに1番花がつけます。花のついた直下のわき芽は強く伸びる性質があります。

露地栽培では、通常は3本仕立てにします。1番花の下の2本のわき芽を伸ばすか、1番花をはさんで上下2本のわき芽を伸ばし、本来の主枝と併せて3本の主枝とします。

3本の主枝から出るわき芽は放任して、果実をならせませす。

順調に生育して、葉が重なりあうようになり、日当たりと風通しが悪くなったら、古い葉は適宜摘み取っておきます。

### 株の栄養診断法



雌しべが雄しべより長い花が多い。  
栄養は十分→差し迫って追肥をしなくてよい。

雌しべが雄しべより短い花が多い。  
栄養不足→肥料を早く与える。



ナスは肥料切れ、水切れが大敵。追肥は何回にも分けて施す。

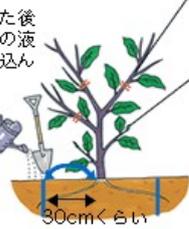
### ポイント 追肥

1回目の追肥以降は、半月おきを目安に、化成肥料を1m<sup>2</sup>当たり30～40g株元から離して施し、覆土しておきます。肥料切れと乾燥は、果実の太りを鈍らせたり、ボケ果の誘因になるので、1番果収穫時より追肥と畝の乾きに注意します。株の栄養状態を判断する時、「栄養状態の診断法」の図のように、咲いている花を観察するとよく分かります。畝を乾かさないう水やりをして、果実の肥大を促します。畝の水分安定を図り地温を和らげるため、敷きわらやマルチングをしておきます。

### 更新剪定

原則的に枝はどこで切ってもよいが、葉が1枝でもついていたれば安心。

根を切った後へ500倍の液肥を流し込んでおく。

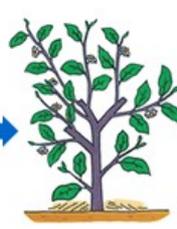


幹から出ている短い枝は残しておく。



※株元から30cmくらい離し2方向だけシャベルを深く挿し込んで根を切っておく。

枝の切り込みが深んだら畝の表面を軽く耕し、シロナやコマツナのタネをバラまきしておく、次のナスの収穫が始まるまでに一作収穫できる。



新しく発生した枝も2葉ごとに花をつける。

### ポイント 更新剪定

高温を好むナスでも、真夏はなり疲れなどでどうしても樹勢が弱り、品質のよいナスの収穫が望めなくなります。7月下旬～8月上旬に枝を切り戻し、新しい枝を出させると、おいしい秋ナスが収穫できます。



ポイント 収穫  
家庭菜園では、大きくするより若どりをした方が、やわらかなナスが数多くとれます。

保存ヒント 乾燥を防ぐ為、へたの切り口などから水分が蒸発していきますので、ラップでピッチリ包むか、新聞紙にくるんでからビニール袋に入れて口をしっかりと閉めて保存しましょう。低温障害でかたくならないように冷暗所か冷蔵庫の野菜室へ。しなびてくる前に、1週間程度で食べきりましょう。